

# 安養院紅顔梨色阿彌陀如来坐像

(あんよういん ぐはりじき あみだによらい ざぞう)

板橋区指定有形文化財(歴史資料) 平成2年3月30日指定

宝冠をいただき、弥陀定印を結び孔雀坐に坐る姿に造られている本像は、当寺の前立ち本尊として安置されています。肉身部は赤色に彩色され、衣には細かな切金文様が施され、また銅板でできた宝冠には透彫が施されています。作風の整った丁寧な造りの彫刻から、本像は江戸時代初期に正系の仏師によって造像されたと思われます。なお、この種の像は衲衣を通肩にまとうのが普通ですが、本像のように上半身裸形で天衣・条帛をつけた例はほとんど見られません。

本像のような孔雀座を有する宝冠阿彌陀像は、天台宗系の常行堂の本尊によく見られるものなので、あるいは天台宗の寺院から移座された像ではないかと思われます。

なお、肉身が赤色に彩色されたのは、一切万物を構成する元素を示す五大とそれを表す五色にあてはめると、阿彌陀仏が火大・赤色にあたるからです。



所在地：板橋区東新町2-30-23 安養院

交通：東武東上線「上板橋」駅

徒歩15分

国際興業バス

「小茂根三丁目」徒歩3分